

議事録

会議名：第33回中四国学生剣道連盟理事会

- 日時：2010年5月15日PM2時00分より
- 場所：愛媛県武道館・大会議室
- 構成員：35名
- 参加者：湯村正仁、渡邊道德、小倉 肇、木原資裕、榑 康守、大城戸 功、村井慎治、山神眞一、石井博貞、境 英俊、竹内善一、香川直己、矢野宏光、黒田隼也、湯原将人、葛西辰伍、藤井友美子、中山佳祐、宇都宮良泰、久保仁了、小原啓示、月本翔太、近藤秀俊、後藤将仁、下向井 徹、山本哲平、宮崎義大、正村良太（以下委任状により出席と見做す）藤原崇郎、福井悦郎、草間益良夫、廣畑栄三、宮本理幸、明石靖子、上田晴加 以上35名、オブザーバーとして、近藤裕樹

上記の通り、全体の3分の2以上の出席があった為、本会議は適法に成立した。慣例に倣い会長の湯村正仁を議長として議事が進められた。

●記 録

氏名：湯原将人

E-mail：info@tyushi.net（不明点はこちらへ）

Summary：

- 議題1：第32回理事会議事録確認
- 議題2：平成21年度決算報告
- 議題3：幹事会報告（抽選会・連盟脱退報告・平成22年度以降の行事予定）
- 議題4：全日理事会・常任理事会報告
- 議題5：リーゼミ報告・次回リーゼミ企画案
- 議題6：全日本学生剣道オープン大会の報告
- 議題7：剣道有功賞について
- 議題8：剣友会（中四国学連剣友剣道大会）の予定
- 議題9：その他

●議事

1. 第32回理事会議事録確認

会長より、議事録の、3.全日理事会・常任理事会報告についての、第3回理事会の報告の、(3)審判委員会からの報告のうち、二つ目の「学生剣道の技術向上のため各地域に…」の文章の前に「今年度重点事項目標達成の具体化について学生剣道の技術向上のための各種剣道大会を開催する…」を追加することが提案された。提案された文章を追加して議事録を承認した。

2. 平成21年度決算報告

報告者：石井博貞

- (1) 新人戦時は全日審判研修会があり全日費用として37万円の全日負担分があったが、大会の審判員数をいつもより多くした関係で、交通費、宿泊代等々に費用がかかり、35万円の赤字が出た。
- (2) 選手権大会（土のみ）及び優勝大会（土日）でETC割引の効果のため、役員交通費が強節約され、余剰金が出た。
- (3) 前述の余剰金を使用し、9月に2泊3日で将来の実行委員長を集めて、九州連盟と合同でPC集中研修会を行った。今後、リーゼミ時や9月に1泊2日くらいのPC研修を行うことを学生が希望している。
- (4) 平成21年度の決算について異議なく承認されました。

3. 幹事会報告

報告者：黒田隼也、石井博貞

- (1) 幹事会報告（抽選会、連盟脱退報告）
 - ・4月18日、選手権の抽選会が行われた。松山東雲短期大学、鳥取環境大学が連盟を脱退した。
- (2) 新人戦での混成チーム名について
 - ・混成チームは、トーナメントなどには混成 A、混成 B のような表記をし（パンフには大学名入れる）、こととし、表彰状には各大学名を記入することが承認された。（混成チーム名を混成 A、混成 B、混成 C …のようにしたのは、自由に名前を決められるようにすると今後、相応しくないチーム名になる可能性があるため）
- (3) 優勝大会開催時期について
 - ・来年度の優勝大会は平成22年8月28日で申請している。
 - ・平成24年度、平成25年度の優勝大会の9月開催について提案された。全剣連の女子選手権大会が9月の下旬開催の場合には、9月第1週目の優勝大会開催を検討する。今後も検討を続ける。
- (4) 選手権大会開催地について
 - ・選手権大会の松山で固定開催の提案がされた。
 - ・高松開催では体育館の関係で土曜日開催の可能性大であり、審判研修会を行う上で土曜日開催はなるべく避けた方がよい。また、学生が金曜日から準備しないといけないことや、移動等のため授業を休まないといけない。さらに学生役員が隔年で行うと繋がりが悪い等々の欠点が示された。
 - ・固定化することで会場の確保がしやすくなる。また、松山市に固定すると市からの補助金が期待でき、宿泊を要する審判員を増やせ、審判研修会への参加者も見込める。
 - ・松山が第1候補で、松山に固定開催になった場合、審判の県割り当ての分散が可能であることを条件として、議題を一時持ち帰り、愛媛県剣道連盟も含め検討することになった。8月の理事会の時までに決定することになった。

4. 全日理事会・常任理事会報告について

報告者：黒田隼也

報告者：木原資裕

第1回理事会の報告

開会に先立ち、故片岡 守先輩のご冥福を祈り、黙祷がされた後、会長鳥居泰彦先輩より感謝の言葉が述べられたことが報告された。

(1) 各地域連盟の常任理事が改選された。中四国連盟の常任理事は草間先輩とし、理事に木原先輩を決定した。専門委員長は会長より、栗原先輩、井出先輩、安井先輩、三宅先輩が各専門委員長に任命。代表理事は栗原先輩が任命され、理事会も承認した。

(2) 審判委員からの報告

全日本学生剣道連盟主催の大会において今後2年間は幅1.5cmの垂形目印を提供し、背中の目印と併用して行う。これはあくまで、全日学連の提供で行い、2年間の後は関係者等の御意見を聞き、今後どうするのか協議・決定する。

(3) 試合の記録・集計について

地域連盟において試合の正確な記録・集計を徹底してもらうのは無理があるため、今後全日主催の大会において審判委員会が中心となって、検証していく。

石井先輩より先に行われた九州連盟の選手権大会において記録補助員を3名に増員し、審判主任に有効打突（コード）等の確認をしていた。しかし、本連盟においてこれを行うと、補助員が1試合場7名となり、近県の大学だけで賄っていくのは難しい。

5. リーゼミについて

報告者：葛西辰伍

平成21年度リーゼミは「尾道ふれいの里」で別紙報告書の通り行われ、事故等もなく無事に終了した。

次回からは江田島の青少年自然の家に戻る。

6. 全日本学生剣道オープン大会報告

報告者：湯村正仁

平成21年度オープン大会視察結果が報告され、オープン大会の中四国での開催について議論された。

(1) オープン大会は年々参加者が増えてきており、平成21年大会では多くの学生が参加し、余剰金が出ており、大会の開催方法としても中四国でやれるものだった。このような点から会長より、開催について受諾の提案がなされた。

(2) 開催には10試合場必要であり、これが可能な会場は広島グリーンアリーナ、若しくは愛媛県武道館に限られる。

(3) 開催時期としては11月若しくは12月。

(4) 学生幹事会報告

報告者：藤井友美子

各大学に今年オープン大会が中四国で開催されると仮定して参加するかどうかアンケートを取ったところ多くの学生が参加すると答え、中四国から多くの学生の参加が見込める。「参加しない」と回答した学生の多くの理由としては「参加費（5000円）が高い」というものだったが、大会運営上これ以下にはできない。また、開催地の希望としては“広島”が多かった。

(5) 中四国だけ全国規模の大会が無い。

(6) 開催する場合は、平成25年度？。全日では毎年開催も検討されている。

(7) 広島での開催では新幹線はあるが、空港から市内まで1時間弱かかり、遠方からの参加が多くは期待できない。また、会場の駐車料金の問題もある。

以上の意見を踏まえ、拍手により、受諾の方向で検討することが承認された。

7. 剣道有功賞について

報告者：石井博貞

剣道有功賞の推薦があれば木原先輩にメールで報告する。

昨年受賞者の青野先輩よりお礼があったことと、寸志があったことが報告された。

8. 剣友会（中四学連・剣友剣道大会）の報告

報告者：矢野宏光、境 英俊

- ・第12回中四学連剣友剣道大会が11月28日に愛媛県総合運動公園内のサブ道場で行われる。前日は稽古会も同道場で行われる予定。懇親会は松山ワシントンホテルで行われる。
- ・全日学連剣友剣道大会は平成23年3月12日～13日名古屋の枇杷島で行われる。

9. その他

- (1) 鳥取県より、諸事情が重なり8月29日の優勝大会に規定の審判員数5名を出すのが難しいという報告があったため、審判部から島根・山口・広島 of 審判員数を一名ずつ増やすことが提案され、各県の先輩方が承諾された。
- (2) 大会開催県の審判員数が18～20名となっていることについて難しいようなら、他の県に2～3名の増員をすることにより開催県の負担を軽減させることを今後検討する方向で提案された。
- (3) 次回から理事会を30分ほど繰り上げて行うことが提案された。

以上の議事を終え、本会は午後15時09分、議長が閉会を宣言して散会した。
上記決議を明確にするため議事録をここに記す。署名人はこの議事録が正しいことを以てここに記名及び押印する。

平成 22 年 5 月 15 日

中四国学生剣道連盟 第33回理事会

署 名 人 矢 野 宏 光

署 名 人 湯 原 将 人



次回 MTG

日 時：2010年8月28日

場 所：岡山大学・一般教育棟・B棟23教室